



深取

今まで50種類以上食べた中で、アブラボ



伊藤ル

水彩画を始めた。職場で大量に出る

敷)で開く。予備日は30日。

45歳、子育て中の4児の父親です。常日頃、子ども達には身の回りに起こる社会問題にも関心をもつて、身の丈で考え行動できる人間になつてほしいと考えています。

2月末から連日報道されているロシアのウクライナ侵襲。家族でテレビを眺める中で、戦後生まれの私が対岸の火事とせずに、子ども達にどう伝え、教訓とするか。とても悩む日々でしたが、3冊の本をヒントとすること、私なりの言葉として、伝えることにしました。

1冊目は、平野高志著『ウクライナ・ファンブック』。キーウ在住で写真家としても活動されているウクライナ国

営通信社の編集者の方が出版された本です。ウクライナへの愛にあふれた本で、この本でウクライナの歴史や国民性、美しい風景や魅力的な文化を知りました。

ただ、この約2カ月で、この本にあつたものが失われていく現実がありまして。自分達の身の回りにある文化も、戦争によって簡単になくなってしまふ現実を、この本を見せ、私なりの言葉で伝えました。ウクライナの現実を通して、子ども達には自分達の身の回りの身近な文化も大切にしてほしいと考えています。

### この戦争について 子ども達と考える

飯田理一朗

原中に寄贈させて頂きました。

地球上で最も繁栄した生物と言え、その一つが「小麦」と言えます。その小麦が多く生産され、欧州のパンかごとも呼ばれているウクライナ。自然豊かで、のどかな牧歌的な風景が素敵な国でもあ

りませう。2冊目の本は、西島清順著「教えてくれたのは、植物でした」。地球上にホモ・サピエンスの1種類しかいない10万年の歴史しか持たない人類に比べれば、多種多様な関係がいろいろある。自分達なら、どういう関係周囲と

から得る学びは、とても多いです。この本にも書かれています。植物は日照権を巡って、他の生物と同様に激しい生存競争を繰り返しています。しかし、植物には他の生物と違うところがあります。それは、ど

望むのか。子ども達には植物からも学んでほしいと考えています。

3冊目は渋沢栄一著「論語と算盤」。この本の中で、渋沢はキリスト教の説く「愛」と、論語で教えている「仁」について触れていますが、自動的と他動的

も、互いによつたらないということですが、樹木同士であれば、それぞれの枝をよけて、ひたすら日光を求めて上へ伸びてゆきます。ロシアとウクライナの間において、どこでは類似しているかはありますが、今回の戦争を見る限りでは大きく違つて感じています。キリスト教圏で行われていることもあるせいか、互いが主張する「愛」ばかりが見え、「仁」の部分が大きく欠けているように感じます。

私達は東洋思想が根強い文化で生活しているものの、明治以降は西洋思想の文化の影響も大きく受けています。どちら

(会社役員、原